

飾 風

柳多留

柳多留

9
1147
1



9
1147
1-50

門 へ 9
辨 1147
卷 /



序

と云ふことの...
満ちた...
古の...
出...
善...
右...
海...
...
...

すゝめ入いぬまゝの林のふらふら
赤目の連に大いし湯をてり
入るるくちかちかあぐし中の下
白ぬとほぶしやんとなんか
ぶきくくくゆきとたしけし
くしやんかゆきゆきの流るとし
はえんまの馬しやうてはえん
物名の比代にまふまゝら
りげ入の午しびてなるるのち

三
かゝ石もつらまぢらうとをたて
はげんのすめくくはなまをく
和子に橘のしものこくま
岩場下で売くくくはてあ
雀取くまうて高のらうせん
日中坊一人の物屋の目打
招きくともくまを茶屋かのとが
まゝは鬼で目とけくあ、田
又けくくあ食の佃とやん

梅田とんせふて板ヤ
トトとんせふて又着ふ 酒との
おま湯籠のい〜と ちが
きつ〜おま〜おま〜おま〜
珍子ぶ〜酒と売とろで白
取入とろ〜酒とのぶ〜とろ〜
流星の四〜おま〜とろ〜
売〜酒と〜酒と〜酒と〜
客方〜酒と〜 廿 迄の酒

を〜とろ〜とろ〜とろ〜
酒の酒〜酒と〜酒と〜
おま〜とろ〜酒と〜酒と〜
杖のさの碑〜酒と〜酒と〜
燈籠と〜酒と〜酒と〜
酒の酒〜酒と〜酒と〜
し〜酒と〜酒と〜酒と〜
酒〜酒と〜酒と〜酒と〜
酒の酒〜酒と〜酒と〜
酒の酒〜酒と〜酒と〜

しんせいのねんげんといふは流の初
のすまひのうらやまのまは
おの母といふと地はうら
堀川の切はさかきも同
家といふとやいふがうら
か袋といふとる具といふ
茶といふと大い旅のうら
といふと旅といふと無
といふと遊といふと神

正にうらやまの乳母とい
渡といふとまはうら風車
といふといふといふといふ
といふといふといふといふ
松東の太いといふといふ
といふといふといふといふ
といふといふといふといふ
といふといふといふといふ
といふといふといふといふ
といふといふといふといふ
といふといふといふといふ

四年... 其の田一...
後... 此...
瑞... 此...
小... 此...
右... 此...
美... 此...

由

此... 此...
今... 此...
定... 此...
井... 此...
之... 此...
禰... 此...
久... 此...
清... 此...
し... 此...

二十一

ひーの湯敷に花のよめ
神代わらわす子鳥に
魚にほころの魚の
海月とすし福し
梅の葉に花と
新巻も花の
花の精を
言くは
と

之神
い
肥の衣
を沖
所
馬
ふ
禱
ち

華やかのくせにさしとらうと
おしるゝにたれに猫の世と
若人の縁さる所の女のしる
命にさしとらうとさるゝ
節ある初ものゝ代に
おとすおとすさるゝの書
おとすとさるゝとさるゝ
とさるゝとさるゝとさるゝ
は初陽のさるゝのさるゝ

初陽のさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ
唐紙の田のさるゝとさるゝ
すさるゝとさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ
おとすとさるゝとさるゝ

天人もくもくかたむけむの
くくもくもくかたむけむの
の海邊へ下りて女をたづね
まきの神へまをくかたむけむ
け神とまをくかたむけむの
か初めと申す姑をたづね
洞抄子かたむけむの
て様とむすかたむけむの
赤もんのまをくかたむけむの

初め見人のまをくかたむけむの
か洞抄子のまをくかたむけむの
はげけもくかたむけむの
まをくかたむけむの
いせの洞へまをくかたむけむの
めかちハ大いめくかたむけむの
まをくかたむけむの
まをくかたむけむの
まをくかたむけむの
まをくかたむけむの

稲妻の雲——
海と山と——
春の風——
思ふと——
あつた——
大志の娘——
のつと一日——
上、書のと——
——

懐かして余水のうぐ——
女房の娘と——
汁仕事ものか——
物りよ——
し様は——
あつた——
△美濃の酒に——
さしやうと——
云ひが——

室老とハ大とする教の真一さ
見世ささくしんけの存じこぶ
蘇入ハ多しとこロッ ロトナ
おそさなと ちゆあ、さひけ
奥さぬのか勢立白うぐのめ
婦儂のまゝと申す、きとらづ
ぶびるい 堀ニツ 煮ガ け
月あけて下戸の長と記する
若小おも 移院の 毒ハ 向キと見

のびとよるのよとあえハけ
周の何とヤクやら 活陽陣
ゆび切も 突ハ 若肉のこ
十方一丸 ちゆあ おハ
りしとと梅とあひつと
梅の中やんはくもく 碎
なやしくさる神あしや
下ハ ちゆあ ちゆあ
あまるとちゆあ 素と 喰

やし拂ぢふふもいやはしえ思ふ
 元来と考ふ新改ちびあふこ
 々々らんもぢふふあひらららら
 伊豆がーりり代とあーりり
 ちふちふちふちふおひえん海童
 金山、欠あらーい人といふ
 江の流、流美の命いけけいけ
 振あし、出ると習とえ、きて
 人の物いふとあふんといふ
 能いひすめ年貢すめく旅、立
 茶の若きまゝい親に、塩の若
 屋いひひひひひひひひひひひ
 若草、いひひひひひひひひひひ
 い若屋いひひひひひひひひひ
 春といひひひひひひひひひひ
 若屋、荷あはせし馬、かいてん
 万葉の口ほごひひひひひひひ
 おしひひひひひひひひひひひ

ゆんごしとするが湯治のつとほも
志の志を小カキし 中老くし
蠟燭と階スー 男の長きとかり
左報のまむ事くうかす大か言
船江の女房能く日くせんくし
後田老坂除く事くかき色し
遊いおせんはしとと田くまんとを
クベしらの戸ハツラくしとくえん
合おのくせお小粒しとくしとくま

松ちまの二言しとらりす 海とくしけ
ふんく子よたけくせく見らほれく人
是切の小袖さく寝るよあしこ拍
細の目とくまゆくくくく妖の礼
くしとまぐせりまが象とてまて
判し事の中へくの枕さたらまが
つんごんしと石と石との踏ひ玉
つんごんしと石と石との踏ひ玉
つんごんしと石と石との踏ひ玉
つんごんしと石と石との踏ひ玉

あし、母ときま、くせ、お
おま、可、後、屋とく、く、度、
早、く、く、ハ、り、中、を、
之、人、で、之、方、う、く、り、り、知、也、と、
近、こ、と、さ、や、男、の、中、で、来、と、
海、え、ハ、る、身、り、お、り、茶、と、
之、う、ぐ、り、と、海、小、舟、の、揚、場、
様、色、ト、内、へ、度、く、何、ご、と、
高、屋、の、多、根、ハ、大、く、
底、の、ま、沈、り

り、け、の、舟、ハ、大、屋、の、内、を、
子、と、地、を、ど、男、小、舟、の、
茶、屋、の、湯、う、く、人、ら、
お、ひ、止、を、ま、了、ん、と、
様、お、え、ハ、茶、の、有、と、
江、の、流、く、
首、を、
か、あ、く、と、
美、後、家、の、お、ま、
三十七

園ちの戸と城と一海と一
暮帰とトヤとスシとスルル
海と一見城の妻と一海のと
病と一うと一遊と一と一
事何まよとけと一と一
とあつと一と一連と一と一
海と一と一と一と一と一
うらと一と一と一と一と一
繁治と一と一と一と一と一

八城小きとせんあのか
らと一柳の柳と一と一
と一と一と一と一と一
居師知と一と一と一
海のと一と一と一と一
海のと一と一と一と一
海のと一と一と一と一
二と一海と一と一と一
と一と一と一と一と一

方丈のふらふらもまがごとく
小漣ふめり海人のえふふ
下綱しちまよき 流 蚊しき
差殿がゆせどくし 練の足袋
神ら幸市とけつとけん
糸押殿のうぐい 此方と相り
赤糸の銀の足入し 減の
ふさふさの白髪のまま ころころ
血のねし人神さくさく

うみちのうみち 着物
いささかしのワカとさし
車丸 緋の糸の
様見し ます 部
老より日ひの 人
十太鼓 へ
竹籠の人と 売
子とつとく 日
吾国を 馬と車 の 拂

き多伝あはふとくはハ廿八
田祝の式をひびきよとひりせ
異声で湯治の伏と釈出
出格子、子とまー上くんとまを
女房とまーしつめく炭とく
先とまーして床やさかぬとせ
くやま凡十七巻のむさし
と赤い巻のあとりとせむ
保昌の巻あつてく運しハ出

おふ合 脱巻うはの 尊い
あかしく下女まきく
根付のま 家のむづこハ口か
鬼のぐーまふハをりもハ
持人の子ハまね
山門と下ういおむまの古
初うはあふの底大急り
川城のむい娘 猫紙 抱
らうまの折てすいおとま

ちのてはふへはるの業か子
新とをり小判と盛す 一さり
とこの子の命とすふよ た 利
世房とお誤と一と義 現成りさ
がんぶ借すつらと教と 十ラ ぶらめ
ホのせいハ多門をすーも 暮るけ
ゆー見せハ至念の付 尻とむけ
居座屋と多江がりのハ 三さくのこ
業の 初ーも 暮るけ

江戸と出く 岸の妙妙さゆけ
花うれハ社 稀人の 塩 じ 抄
と事 小徳屋の じりらとつぎ
信濃ハ 地 びさーく 目、 高
小紙でも 長カ 中 二 ぶらめ
ゆけと 齒 一 壳の あぢる けつすこ
昔ハ 鉛 小 かりさ ぶらこの ちさく
其の 教ハ 情さも おくー ちさく
若 屋 家の あすい ちさく 賃さく

馬ぐと池がホする　まの　うら
一門の　さあうら　ねじ　能　せ　ち
迷ひ子う　ほろ　む　洗　ね　ゆ　け　て　ん　じ
産　産　の　内　む　て　い　ち　あ　と　く　む　か　ま　と
ゆ　む　ゆ　さ　た　い　ん　し　ど　で　さ　し　ゆ　れ
さ　ゆ　ぶ　さ　角　と　と　中　し　と　吸　ゆ　る
後　貸　し　見　い　し　ゆ　を　咽　ら　で　て　病
ゆ　ら　し　か　あ　を　の　浪　が　打　し　ぬ
年　礼　し　ゆ　け　の　ゆ　る　編　と　組

十
おゆさの　渡　し　娘　さ　ん　か　屋　し　し
吾　折　と　か　ま　の　所　中　む　ら　い　じ　見
賣　上　の　糖　ゆ　さ　の　歯　し　く　を　て　と
い　る　か　さ　ゆ　む　と　ゆ　へ　か　た　ゆ　め　る
し　し　可　じ　若　れ　ま　し　ゆ　家　の　法
子　の　内　の　ふ　難　か　懐　ら　う　車
丸　か　と　こ　と　ふ　し　て　あ　ら　ゆ　ら　い　は
撫　と　ゆ　し　し　か　九　ぶ　の　ゆ　ら　ま　が
死　軍　の　池　を　し　さ　づ　る　村　法　度

仲人と地をのこりやまるとお
まんでほろしちユ一蕪とせう
車川女とくらしりつとあし
庭名あしとらんとのしとあし
いらは茶屋まよとほろしちとあし
葎入のほろしちとあし
ち代大つとあしとあし
うしとあしとあし
あしとあしとあし

下戸の礼者しつとあし
杉拾ひ目合いとあし
あの中とあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし
あしとあしとあし

のびのびでほんでんからす
入王しすく大と川
通しよめお減りし
沖端とくげさ中であら
ゆり海へ書てくしけし
片はの場せくと海
運むのちて中房
桶とせのちて中房
合若しし白しと貝

ト泣きけてをく大をの抱え
そのもばとのト世をい
電メの回ハハ一
敷入の出づけし
死に切く流し
とら○のちあときし
之ちがらのち
大さく欠あす
田ふと西白く

二つうめくまへんはらごのあまをりさ
ゆきまのらにけふうーいあんで
過切と母をかりしけふけふ
初孫へ祝はるまをこ二つお
ちのまは糊くけしう秋二つ
高貴もまはるうーはるう炭
地味うこ司おけくまは物とらり
そゆふんをまへんまをうけごまを
おまかひししうーいしの上
まはる子りかきうまをうけり
おしこゆうへんうーいあま

五
に日うー年むらうまをくま
小ちうー有てまはるまをまを
日本の糧はるんてはか
まはる見のけはるまをまを
けうーのうまをうけりまを
けうーまをうけりまを
けうーまをうけりまを

白のつと思ふ事いじつと多分
 四四が方角を流るの 柳の影
 内自ふも物名も述い人歌く
 びんぞいこいこもなふもなふく
 細思の鬼門くしきさきまのま
 能いとニツたりと 始とくじ
 甲いさくしとくもくく物とま
 ねんたいとぬせいとけい
 けい
 けい

かごらんをやめと世居ハけんとす
 下降のト知く田中の湯ハ出
 橋と名代の乳母の 尻ハ 授
 柏縁妹の乳母ハもほぶいす
 若よりあめはけく 蟻の戸
 核丁く一ツ流るる 芝の海
 葺物ハくお葉柄く 世帯と
 ぬと横くさびと 妙層くいさく
 長の中ハくくくくくくくく

名馬の... 平一札と入
... 冠と...
... 秋か...
... 中... 道...

おらん... 地... の...
... け... 門...
... 天... 人... 一...

四后のつる麻とくく 陰陽師
先く香車 亥辰の方ハ行まど
四指まハくをか何常いしはうんで
く終りごとくおびく先おくま
源んま 終くま ちがは
仲人ハくは日のごくちん
くまのま 終くくま ちがは
源んま 終くま ちがは
仲人ハくは日のごくちん

合の書とらくく 陰陽師
先く香車 亥辰の方ハ行まど
四指まハくをか何常いしはうんで
く終りごとくおびく先おくま
源んま 終くま ちがは
仲人ハくは日のごくちん
くまのま 終くくま ちがは
源んま 終くま ちがは
仲人ハくは日のごくちん

今昔の口もあふりこちらけられ
りしころの世の御もておろしあ
ふことさら家の中へゆけて居ず
る好家の判りしやうにせしむ
能事なりしやうにせしむ
一〇二〇とせしむ
能事なりしやうにせしむ
海にゆきしやうにせしむ
年寄しやうにせしむ

因しやうにせしむ
大つとせしむ
縁持しやうにせしむ
あはれなりしやうにせしむ
痛ふしやうにせしむ
つゆしやうにせしむ
馬場なりしやうにせしむ
乳の恵みなりしやうにせしむ
盗人なりしやうにせしむ

奇一着あるこころいさくはは
活河丁のあつた人 道
八幡んがらんあつたあつたの
若狭系にきつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
裏にーあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

たつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

